



猩々山 上ニ階町

猩々は想像上の動物で謡曲にもつくられてゐる日出度いものです

この山鉾は貞享四年(一六八七)九月に寄進され、当時小船山といわれ、たがその後三回程改造されてゐるとわれ安政六年(一八五九)九月に猩々山といわれるようになったと記録があります

「鉾」は葉菊の上に月と太陽をのせ、「中水引」は赤地に波と松竹を配し、猩々が酒を呑んでゐる図です。菊月太陽、猩々は「づれも長生と悠久を象徴した日出度いものです」



参道への
自動車の
乗入禁止



恵比須神社

篠山系びす神社

恵比須神社



七年一月十日

納









雲屋西垣

上二階町内会

菓子名 東屋西垣







兵庫県篠山市黒岡鎮座

春日神社

一、祭 神 健甕槌命たけみづのむすこ、経津主命よつねのりぬみこと、天兒屋命あまのこやねのみこと、姫大神ひめのたまがみ

一、由 緒 貞観年間（平安時代）奈良春日大社より

ご分霊を今の篠山城址に勧請し奉り、日置の庄、黒岡の氏神としてお祀りしてまいりましたが、慶長十四年篠山城築城の為、現在この地に奉遷しました。境内の能楽殿は、国の重要文化財に指定されております。絵馬殿には、黒神馬の絵馬なども市の文化財として指定されております。

一、境内神社 大神宮、天満社、愛宕社、八幡社

稻荷社、八坂社、日吉社、水分社

一、祭 日 元旦祭・一月一日、節分祭・二月三日

厄神祭・二月十九日、春祭・四月三日

天神祭・七月二十四日、

秋祭・十月第三日曜日（本宮）

前日（土曜日）宵宮

お火焚祭・十二月九日

能楽殿における年間演能日

一月一日……箱奉納

四月第二土曜日……春日能



天満宮改築神田寺







篠山市指定文化財

黒神馬くろしんめ絵馬

昭和三十三年八月十日指定

この絵馬は慶安二年(一六四九)第三代

篠山藩主松平忠国が、明石へ転封の際、春日神社へ奉納したもので、縦一・五三m、横一・九三m、狩野尚信の筆といわれ筆力雄健、精巧を極めている。

この馬が絵から抜け出して黒岡の畑の豆を食い荒らしたという伝説から、一時この馬だけに金網が張られていた程の名作である。



黒神馬絵馬

大森彦七絵馬

昭和三十三年八月十日指定

この絵馬は貞享四年(一六八七)篠山藩主松平家の臣、塀和佐内景広が奉納したもので「大森彦七南朝の雄魂に悩まされる凶」と題する。

足利尊氏の幕下である大森彦七が、湊川合戦で楠木正成に詰腹を切らせたむくいとして南朝諸雄の靈魂に悩まされたという「太平記」二十三巻の故事によって描かれたものである。

平成八年三月



大森彦七絵馬



黒神馬
黒神馬は、黒馬の一種で、黒毛黒蹄黒鬃の馬を指す。古くから、武家や貴族に愛され、戦馬として活躍した。現在も、黒神馬の産地として知られている。

大森川七瀬川、徳川家康の御賞
徳川家康は、大森川七瀬川に遊覧した際、御賞として、大森川七瀬川の馬を賜った。この馬は、大森川七瀬川の馬として知られている。



奉獻

貞享三年三月廿五日

松園書

廣良白



此は五郎、五郎、孫、
貞享三年(1786) 本堂に書かれた
奉獻の絵です。書かれたのは、
心洗工部局の、松園、十條、
三條、如來、入道、新島、
龍力五郎九郎、等、の、
書かれたものです。

此は五郎、
貞享三年(1786) 本堂に書かれた
奉獻の絵です。書かれたのは、
心洗工部局の、松園、十條、
三條、如來、入道、新島、
龍力五郎九郎、等、の、
書かれたものです。